

躍動する若い女性たち (年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2017/09/16

寺院の境内で大蓮池の周囲に設置されている御影石のテーブルと一人用の椅子に、高齢の男性二人が座って話をしている。グレーの小粋なハットを被った老人とハンチングを被った老人よりやや若そうな男性はどちらも小柄で、シャツにベストとちょっとおしゃれで絵になっている。お互い耳が遠いのか、顔を近づけるように話している姿が微笑ましい。以前なら年寄りの前をスタスタと通り過ぎたが、同じように年を取って、足腰をかばいながらの散歩をする自分には、ほっとする心温まる光景だった。

「廣次延次郎」と彫られた木の表札が目止まった。次という文字が姓と名にそれぞれ使われている。“What to do the next.” が浮かんだ。ただ、それだけのことだが…。坂道を気を付けながら、ウォーキングを続ける。

長年の80代友人との電話で車の免許で認知症テストのことが出て、「私は日付なんて覚えてないわ、曜日で生活してるから」と友人が言った。私も朝食後に朝刊の連載小説を読むが、日付は見ない。が、毎日服用している薬のパッキングの裏にマジックペンで、飲み忘れと飲みすぎにならないように日付を入れてある。それでも月に一錠は飲み残しが出る。忘れっぽくなるのも自然現象だが…。

躍動する若い女性三題

2017/09/22

お彼岸に入ったのに、まだ残暑が続いている。涼しげな白地に青い線のストライプの日傘をさした若い女性とすれ違う。薄桃色のワンピースの装いで、髪をひつつめたその女性は傘で覆われ唇の部分しか見えないが、紅を塗っていない唇が自然で形が美しい。なにか美しい涼しさが通り過ぎた。

2017/09/23

土曜の朝9時ごろ、駅に向かうのか若い女性が早足で私を追い越す。小顔の髪をきゅっとポニーテールにまとめ肩の下まで垂れた髪がまさにしっぽのように元気よく、白いレースのブラウスの上で左右に揺れている。細身の女性だが、お尻は上半身に比べて大きめ(失礼)でグレーと黒の縦縞のだぶだぶパンツが似合っている。きのう今日と若いはずとした女性に出くわしたおかげで、気分だけは澁刺の私。

2017/10/5

ライトブラウンに染めた髪を背中まで長く垂らし、薄紫色の長そでシャツとクリーム色のタイツスカートに、長いすっと伸びた足に黒のハイヒールの若い女性が20m前を腕を元気よく降って、仕事場に向かうのか踵をカッカッと音を立てて闊歩している。あっという間に50mの差になり、あっという間に姿が見えなくなった。秋風というより、きっと新しいプロジェクトに燃えている突風が吹き抜けたようだ。

とんと若い元気な男性が目につかないのはご時世か。

2018/01/7

お正月あとの3連休で神社仏閣は初詣の人で三ヶ日のように賑わっている。目の前の参道をぞろぞろと詣で客が通り過ぎる道のはずれにある中華料理店の入り口の前で、小学生の兄弟が黙々と玄関ほうきで掃除をしている。ちりとりでゴミを拾う兄。兄に見習ってか弟が膝をついて小さい毛ぼうきとミニ塵取りで階段下をきれいにしている。兄が「ありがとな、…(?)」と弟に声をかける。4年生と一年生ぐらいの兄弟はすでに親孝行をして、新年早々感心な兄弟を詣でることができた。

2018/03/09

年を追うごとに気候の様相が激しくなっている。一雨ごとに春がくるとゆったりと表現されてきた冬の終わりの今も雨がまとめて数日降る。春の陽気になった途端、真冬の気温に戻り北風が吹くの繰り返し。雪国の降雪も数十年ぶりの多さとか、それが突然雨が激しく振って、雪崩や河川の氾濫注意報が出る。日本国内どこもめまぐるしい気候の変化はますます激しくなるようだ。火山の噴火も増えている。日本人の意識、心の変化に関係があるようにも思える。

2018/03/13

私立高校の制服を着た女学生二人が自転車で駅方向に向かって私の横を通り過ぎる。どちらも髪をひとつに束ねたポニーテール(今の時代はべつの名称かもしれない)右側の学生がもう一人に「少し下過ぎねー」と声をかける。左手で束ねたところを確かめながら「…」と答えたが、聞こえない。確かに微妙な高さだが、右側の学生は若々しく髪全体がひきしまっておしゃれに見える。左は年配の人が邪魔だからと雑に束ねたように見える。おしゃれって小さなところでとても違ってくると思った。

2018/03/10

寺院門前参道右側に飲食店2軒、おみやげとクラフト店2軒と半世紀以上に創業の酒屋が並んでいる。がらんと広い店内には埃を払った瓶が置き換わったことは皆無と見えるように雑然と並び、その前にこれまた置物のように駄菓子やら雑貨が置かれている。店先には表面が半分以上錆びているアイスクリーム庫内に商品が入っているようで、夏場にはたまにお参りの子供の客がアイスを買う。店頭の左には小さな窓口があって昔はそこでタバコを売っていたに違いない。今は窓口の前にこれも古いたばこの自販機が置かれている。この自販機が一番商売をしていてその前が喫煙場となって、職人さんやら通行人が立ち喫煙していることもある。

その店主は70代か80才間近で、髪の毛はほとんどない小柄な男性だ。朝9時15分には4枚の重いシャッターを上げて店を開き、前の参道を掃いてきれいにする。客はほとんどないので、奥からはテレビの音が聞こえる。定休日はなさそうで、店番を365日何十年続けてきたのだろう。

三月に入って、一年中変化のないその店のシャッターが10時過ぎても下りたまま閉まっている。数日たって通っても閉まったままで、20年以上ウォーキングで店の前を通っているがこんなことはなかった。店主になにかあったに違いない。朝、10時前にかかるとやはり閉まっている。帰路、前を通るとシャッターが3枚分3分の2まで開いている。店主だったらこんな中途半端な開け方はしない筈。店の中から出てきたのは、中年の夫婦らしき二人。見たことがない。店主の親戚だろうか。変化とは程遠い店が大きく変化したようだ。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)